

## 平成 30 年度 指導計画及び展開案の作成における留意点について

指導計画及び展開案を作成していく中で留意することを以下に載せる。また、学習指導要領の改訂により変更する部分については赤色及び下線で示す。

### 1 作成分担について

- ・ G 長は「Presentation/Project 指導計画」を作成し、複数単元全体の指導をデザインする。
- ・ 研究員は、「単元指導計画」を作成する。
- ・ 研究協議員は、「単位時間の展開案」を作成する。
- ・ Ways に掲載するのは「Presentation/Project 指導計画」「単元指導計画」「単位時間の展開案」を基本とする。追加資料として、ワークシート、初見の Reading(Listening)教材、実際の授業で用いる Power Point のスライド等を作成してもよい。
- ・ 今年度も引き続き、テストと指導の一体化に重点を置いている。そのため、「単位時間の展開案」は必ずしも単元終末というわけではなく、テストで測られる力を育成するための活動が位置付けられている授業の展開案が望ましい。しかし、他の単元との兼ね合いもあるため、どの授業の展開案にするかはグループ裁量とする。

### 2 Presentation/Project 指導計画及び単元指導計画作成における留意点

#### (1) 留意点 1 : 単元のねらい

学習指導要領の改訂により変更する。ねらいは、従来のように単元のねらいを単文で示すのではなく、**「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つそれぞれに目標を設定する**。また、文末に「**知・技**」「**思・判・表**」「**態度**」を位置付ける。**知・技**、**思・判・表**、**態度**のねらいは一つずつとは限らない。特に、**思・判・表**については「理解する」「表現する」「伝え合う」の三つの要素があるため、複数のねらいが存在することは不自然ではない。さらに、従来の「**[話題]**」「**[内容]**」「**[表現方法]**」「**[程度]**」は文言としては位置付けないが、その視点を含めて三つの目標のいずれかに含める。特に、程度については、学年ごとの学習到達目標に照らし合わせて設定するとよい。

例)「NEW CROWN 第3学年 Lesson5」における単元のねらい

- ・ 関係代名詞(主格・目的格)の用法とスピーチの構成を理解し、スピーチの場面で活用することができる。**知・技**
- ・ 自分の行きたい場所について、そこでしたいことやできることを整理して伝えたり、10文程度の英文で書きまとめたりすることができる。**思・判・表**
- ・ ブラジル等についての説明文の概要を理解することができる。**思・判・表**
- ・ 様々な国の文化についての理解を深めたり、聞き手に配慮しながらスピーチをしたりしている。**態度**

#### (2) 留意点 2 : 主な言語活動

学習指導要領の改訂のポイントの一つに、「言語活動に関する事項」の中で五領域別の言語活動がい

くつか例示されていることが挙げられる。これは、複数の領域を統合した言語活動が十分に行われていないという英語科の課題の一つに対応するポイントとなっている。このことを踏まえ、Presentation/Project 指導計画及び単元指導計画において、主な言語活動を列挙することとする。ただし、単元内全ての言語活動を位置付けるわけではないし、似たような言語活動を繰り返し取り組む場合は一つにまとめてもよい。単元全体を通してどのような言語活動に取り組んでいるかについて、この項目で表すという意識で単元指導をデザインするとよい。

例) 「NEW CROWN 第3学年 Lesson5」における主な言語活動

**第1, 3, 5, 7時：話すこと [やり取り] の(ア)**

自分の行きたい場所や Dream House 等について相手に質問したり、その場で適切に答えたり、関連する質問をしたりして、会話を2分程度継続する活動。

**第2, 4, 6時：読むこと(ウ)**

ゲルやハリウッド映画等についての説明を読んで、その概要を把握したり5文程度の英文でまとめたりする活動。

**第8～10時：読むこと(エ)**

ブラジルについての説明を読んで要点を把握したり、収集・整理した情報をまとめた図表を用いて説明したりする活動。

**第11～13時：話すこと [発表] の(イ)**

自分の行きたい場所について、自分の考えや気持ちを整理したり、順序立てたりしてスピーチする活動。

**(3) 留意点3：評価規準について**

学習指導要領の改訂により変更する。従来のように「関心・意欲・態度」「外国語表現の能力」「外国語理解の能力」「知識・理解」の4つの観点ではなく、中教審答申(H28.12.21)を踏まえて「**知識・技能**」「**思考・判断・表現**」「**主体的に学習に取り組む態度**」の3つの観点を設定する。

Presentation/Project 指導計画においては当該 Presentation/Project 内の、単元指導計画においては当該単元内の評価規準と考える。単元のねらいとほぼ同様の観点で、かつ具体的に設定するため、ねらいとほぼ同様の文言になることはありえる。

**(4) 留意点4：Presentation/Project●とこれまでの単元とのつながり**

この留意点は、Presentation/Project 指導計画のみのものとなる。

NEW HORIZON も NEW CROWN も、大きな特徴の一つとして、Presentation や Project が Unit や Lesson の外に位置付けられていることが挙げられる。このことから、“One Lesson, One Project”ではなく、“Multiple Lessons, One Project”と捉える必要がある。そのため、Presentation/Project 前のどの単元でどのような力を育成してきたか、また、その育成してきた力を Presentation/Project 内のどこで発揮させるかを分析して記述する。従来は、単元指導計画内にも双方のつながりを明記する欄が位置付けられていたが、平成30年度は Presentation/Project 指導計画でのみ記述するものとする。

**(5) 留意点5：「時」の欄**

展開案に即して「【本時】」(MS ゴチ太9pt)を付ける。

## (6) 留意点 6 : 単位時間のねらい

基本的に「●● (活動) を通して, ●●しながら (or●●が分かり) (or●●を理解し), ●●することができる。」とする。あくまで「基本的に」なので, ねらいとして, 本時の目標や活動内容等が端的に一文で示されていることが一番である。単元のねらいのように, 文末に「知・技」「思・判・表」「態度」を位置付けることはしないし, 従来の「話題」「内容」「表現方法」「程度」を文言として位置付けることもしない。

## (7) 留意点 7 : 学習活動

- ・「帯活動」では, 活動の中身が分かるようにする。例えば, 「インタビュー活動」ではなく, 「●●についてインタビューする。」「“What sport do you like?”を用いてインタビューする。」とする。
- ・「導入」では, もし行うとするのなら「Oral Interactive Introduction」で統一する。「Oral Introduction」では, 教師からの一方向的な印象を受ける。
- ・「課題」では, 基本的に英語で記述する。学年の発達段階や, 本時の展開の流れにもよる。また, 課題達成的な文言にするか, トピック名にするかは部会裁量とする。
- ・テキストボックスの枠の線は, 課題は二重直線(3pt), 生徒の話す(もしくは書く)英文は点線(0.75pt), 終末における生徒の感想は一重直線(0.75pt), 指導上の留意点及び個に応じた手立ては丸四角(0.75pt)とする。丸四角の中は, 「◆」で項目立てる。
- ・「学習内容」内に書かれる文は, 全て生徒の立場からの言葉にする。例えば, 「～について指導する。」は教師の立場だが「～の大切さについて理解する。」は生徒の立場からの表現となる。「学習活動」は生徒の立場で, 「手立て」は教師の立場で記述する。
- ・振り返りにおける生徒の日本語の感想は位置付けても位置付けなくてもどちらでもよい。本時にできたことや分かったことを日本語で書きまとめることを振り返りと捉える考え方もある。また, これまで英語でやり取りしたり発表したりした内容を英語で書きまとめることを振り返りと捉えることもできる。どちらにするかは部会裁量とする。日本語で位置付ける場合は, テキストボックス直線枠(0.75pt)を用いて, 始めに全角一文字分空けて文章を始める。英語で位置付ける場合は, テキストボックス点線枠(0.75pt)を用いる。

## (8) 留意点 8 : 技能名

単元指導計画の各活動に技能名 ([L][S][R][W]) を位置付ける。ただし, 個人練習, 振り返り, 音読練習やパンプラクティスのような練習活動には技能名を位置付けない。また, 対話活動の場合は[SL]で統一する。

## (9) 留意点 9 : テストとの関連

「テストの設問の意図一覧表」を基にして, どの活動がどの設問に対応しているかについて述べる。全ての単位時間がテストのいずれかの設問に対応している必要はない。単元の中で, 設問に関わる言語活動を行う単位時間を取り上げて, その活動がどの問題に対応しており, また, どのような工夫をするかについて記述する。記述する際の「●●●●問題」には, 「情報検索問題」「文の整序問題」「タイトルマッチング問題」のように, 「テストの設問の意図一覧」から選択して述べ, 単位時間の展開案と一致させる。当然, 授業によってはテストと関連している活動がない場合も考えられる。その場合は, 「特記事項なし」と記述する。

### 3 単位時間の展開案作成における留意点

#### (1) 留意点 10：本時のねらい

研究員が作成した指導計画内にある単位時間のねらいの文言に一致させる。

#### (2) 留意点 11：学習活動

- ・何か話したり書いたりする活動のときには、その英文を記述する。
- ・「自己評価と振り返り」では、本時の学習内容からどんなことが分かったかできたかが明確になるようにする。ただし、前述「2(7)」のように、振り返りにおける生徒の日本語の感想は位置付けるかどうかは部会裁量とする。
- ・展開案の課題は二重線(2pt)、英文は点線(0.5pt)、振り返りと評価規準は直線(0.5pt)で統一する。

#### (3) 留意点 12：評価規準

学習指導要領の改訂により変更する。従来の「外国語表現の能力 話すこと 適切な発話」のような文言は位置付けない。単位時間のねらいに即して、何ができればよいのかを端的に記述する。評価方法については従来通り記載する。

#### (4) 留意点 13：技能の表記

展開案の「伝え合う活動」や「帯活動」で話す活動がある場合、その場合の技能を「S」だけではなく「SL」とする。ただし、個人練習、振り返り、音読練習やパタンブラクティスのような練習活動には技能名を位置付けない。

#### (5) 留意点 14：テストとの関連

単元指導計画の「テストとの関連」で述べられた活動に、「**【テストの●●●●問題に対応】**」（日本語 MS ゴチ太，テーマ色黒，文字色白）と記述する。「**●●●●問題**」には、「**情報検索問題**」「**文の整序問題**」「**タイトルマッチング問題**」のように、テストの設問の意図一覧から選択して述べ、Pre/Pro 指導計画や単元指導計画に一致させる。

#### (6) 留意点 15：授業の実際

新学習指導要領の「3(1)エ 指導計画の作成上の配慮事項」において、「授業は英語で行うことを基本とする。」が明記されたことにより、展開案に新たに付け加わったものである。英語による生徒との何気ない自然なやり取りや教師からの指示及びその確認方法について、実際にどのような英語を用いて進めればよいのかをこの項目で提案する。もちろん発達段階を考慮することは大切だが、原則第1学年の展開案においても、基本的に英語で記述する。まだ学習していない言語材料（例えば、関係代名詞や現在完了形や仮定法等）についても「学習内容の先行投資」と捉え、教師が用いることに問題はない。また、その展開案1時間の中で、教師の用いる全ての英語を生徒に理解させるとは捉えず、これから繰り返し教師が用いる中で、例示したり比較させたり整理したりして慣れ親しませていくものとする。

また、50分間全ての英語を記述するのではない。例えば、生徒との英語によるやり取りから課題を導入する場面や、活動と活動の間に既習表現を想起させたりする場面などで教師が用いる英語を提案する。

## 5 表記の統一

- ・英文と英文の間は、半角スペース2つ分空ける。見やすくなる。
- ・教科書が大文字なら大文字、斜字体なら斜字体とする。
- ・「・(中点)」の下には文字を入れない。「表示」で「ルーラー」を表示させ、インデント設定を行う。
- ・対話の場合は、「S1」と「S2」で表記する。
- ・フォントは、日本語の場合は「MS 明朝」もしくは「MS ゴシック」、英語は「Times New Roman」
- ・「34 ページ」と言いたいときは、「p.34」で統一する。×「P.34」「p34」「P34」  
また、「34 ページから 36 ページ」と言いたいときは、「pp.34-36」で統一する。×「P.70~71, p.70-p.71」
- ・英語表記内の数字は全て半角とし、日本語表記内の一桁の数字のみ半角とする。  
(例：「S1」「Unit11(Lesson11)」「p.110」は半角数字、「第1学年」「第1時」は全角数字とする。)
- ・日本語内の英文については、「“...”」をつける。(例：“What country do you want to go to?”を用いて、相手の行きたい国とその理由について伝え合う。)
- ・その他気を付けるべき表記

| 誤                 | 正              | 誤                 | 正                 |
|-------------------|----------------|-------------------|-------------------|
| 、(句点)             | ,(句点)          | 良さ, 良い            | よさ, よい            |
| 話すこと【やり取り】        | 話すこと [やり取り]    | [W], [w]          | [W]               |
| 1年生               | 第1学年           | New Horizon/Crown | NEW HORIZON/CROWN |
| 取り組み(名詞)          | 取組(名詞)         | LESSON            | Lesson            |
| 取組, ... (動詞)      | 取り組み, ... (動詞) | UNIT              | Unit              |
| 位置づける             | 位置付ける          | 価値づける             | 価値付ける             |
| 一貫性を持たせる          | 一貫性をもたせる       | グローブをもつ           | グローブを持つ           |
| やりとり              | やり取り           | わかる               | 分かる               |
| 【テスト部会】並びかえ, 並べ替え | 【テスト部会】並べかえ    | 【テスト部会】記号         | 【テスト部会】符号         |
| 4技能5領域            | 五領域<br>五つの領域   |                   |                   |

## 6 参考資料

- 「平成27年度 英語力調査結果(中学3年生)の速報(概要)」  
…平成27年度に実施された英語力調査の問題の特徴やサンプル等が載っている。
- 「GTEC for students」  
…平成27年度英語力調査に類似した設問の具体例が載っている。
- 「中学校 学習指導要領 外国語 解説」
- 「中学校 新学習指導要領の展開 外国語編」金子朝子・松浦伸和編著 明治図書